

日新館

N I S S H I N S H O

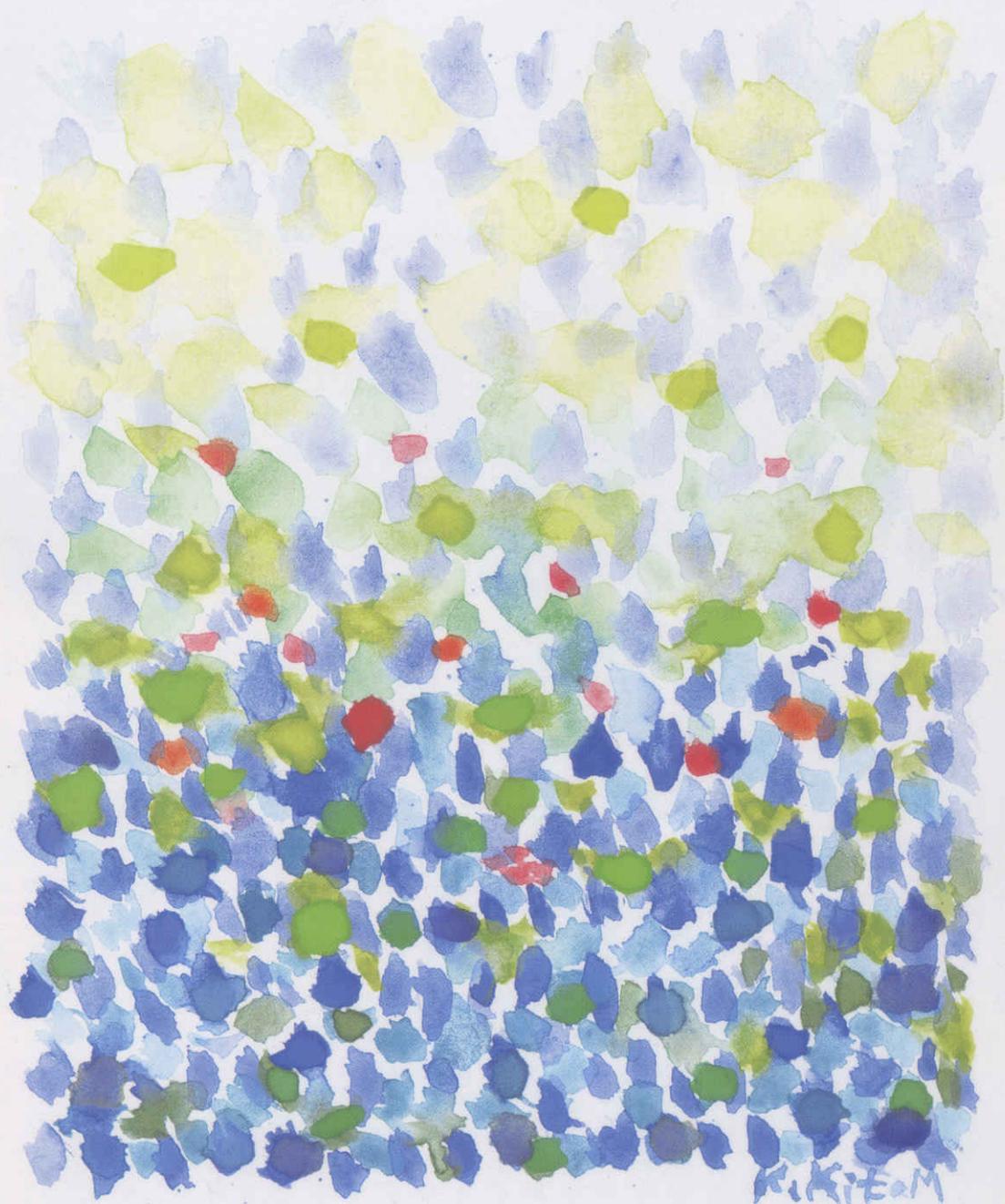
第8号2001年7月13日発行

山梨県立甲府中学校

山梨県立甲府第一高等学校

東京同窓会

発行責任者 恩田 宗 (昭和27年卒)
編集責任者 武内 紘司 (昭和38年卒)



新世紀 共生の時代へ



平成4年6月 旧校舎



平成5年11月 竣工式後の新校舎



平成12年10月 強行遠足

二十一世紀を迎えて

東京同窓会会長

渡辺 喜一



二十一世紀を迎え、情報通信、バイオ、ナノなどの技術が急速に発達して人間社会は大きく変貌しようとしています。確かに科学技術の発達は人間の生きていくうえでの福利を増進させてくれるでしょうが、速すぎる変化に社会や人間がついていけず深刻な問題をおこしていることも否定できません。

複製人間の生れる社会など論外ですが、既に環境、資源、生命、人口など自然の循環を脅かす地球規模の難問が生じ、人間社会はその対応に苦慮しております。同時に必ずしも科学の合理性に即応しない人間の思考や行動が変化への軋轢を生じ、個人個人の心の問題をも提起しております。

私は、どういう社会になろうと人々が心豊かに生きることでできる世の中であらねばならないと思います。今のような大転換期にこそ家庭、コミュニティ、教育、福祉などの意味を問い直すべきではないでしょうか。育った環境を共有する同窓会も大事にしていききたいと思っております。

新世紀への期待

同窓会会長

井上 雅雄



二〇〇一年度甲府一高東京同窓会総会の開催、おめでとうございます。昭和三十八年及び五十四年卒業生の皆様、当番幹事ご苦労様です。

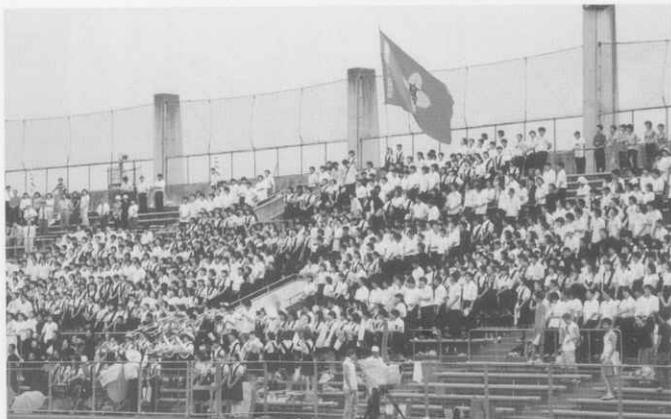
二十世紀は、戦争の世紀という人もいます。イギリスに始まりフランスで花を咲かせた産業革命は、物から始まり人を通して物に帰る。まさに物質文明の世界を創り上げました。二十一世紀は、人から始まり物を通して人に帰る。人を大切にし、自然を守り、民族・宗教を越えた平和の世界を作る世紀だと思います。

今こそ人間教育に新たな挑戦をしていかなければならないと思います。同窓会に与えられた使命は、百二十年の歴史と三万一千余の卒業生が、母校の発展と後輩の育成の為に、日本はもとより世界で活躍し、その姿を示すことでもあります。

これからも、人類の為に役に立ち、世界平和の為に活躍する人材を作るべく、共に努力をしようではありませんか。

母校だより

私達生徒・教職員はこんな風に頑張って生きています。



平成12年8月 夏の野球大会



平成12年10月 創立120周年記念式典



東京同窓会に寄せて

甲府一高校長

山本 秀彦



平成十三年度甲府一高東京同窓会総会の盛会を心からお祝い申し上げます。平素同窓会の皆様には、母校発展のため一方ならぬ御支援を賜りまして、心から感謝申し上げます。国際化・情報化・少子高齢化等が進む社会にあつて、高校においては生徒の多様化の中で寄せられる様々なニーズに対応できる制度面の改善や生徒の個性や適性に応えられる教育課程の弾力化など、教育全般にわたる改革が進められております。本校におきましても古い歴史と築き上げられた素晴らしい伝統を基礎とし、長く将来を見通す中で本校としてのあるべき姿を求めつつ、本校に学んだことに誇りをもち、幅広い人間性や豊かな創造性を身につけた人材の育成に教職員一同鋭意努力しております。

同窓会の皆様におかれましても、今後とも変わらぬ御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、東京同窓会のますますの御発展と会員の皆様の御健勝を祈念申し上げます。

はぐくまれたもの

一紅会会長

五十嵐 節子



昨年、創立百二十周年の記念式典に参列した際、会場で「甲府一高新聞」を渡された。タイトルを一目見たとたん、ザワザワと何かが押し寄せてくるのを感じた。生徒が作るこの新聞が発行され続けているのは、思えば当然のことではある、しかし……。かつて新聞部室で過ごした日々が急に鮮明になった。通学の電車に居合わせただけで部員にスカウトされた私が、「男の子」ばかりの先輩たちにダメ押しされたり反発したりしながら、コラムを書き、割付けに知恵をしぼった。校正を終えて疲れた顔に、ほっと笑みを浮かべあつた。

女子二期生の私たち、当時の社会感覚からは「権威ある男子校の牙城に進入」したともいえる少数派だった。でも気負いはなかった。格別な気負いもなくいられるところに、新しい共生の時代の風を感じとっていたのだろう。

エポックメイキングな時代の母校は、開かれた道をさらに広く遠く切り拓いて行こうとする私たちの意思を、育んでくれたのである。

日々新たに「共生」の鐘を鳴らそう！

二〇〇一年、新世紀に挑む初めての東京同窓会に際して、わたしたちは、この「共生の時代」の意義を高らかに訴えたいと思う。

二十世紀は、戦争とつかの間の平和の時代であった。日本に限っても、日露戦争から始まり、日中戦争、太平洋戦争と続き、また、間接的ではあるにしても、二十世紀後半まで、朝鮮戦争、ベトナム戦争へと、戦争はその影を歴史に色濃く落としている。それは、また、人類による自然の支配、強者による弱者の庄殺の時代でもあった。見方を変えれば、戦争もまた、強者の論理による人類相互のせめぎあいであり、環境破壊もまた、資本と科学技術の結合という強者の論理が貫徹された結果ともいえる。

この非情な二十世紀に生を受けたわたしたちは、新世紀に何を拠りどころとして生き抜かねばならないだろうか。必要なのは、強者と弱者を生み出す競争と差別社会との決別であり、共に幸せに生きることへの信念である。

ここに、環境保護という人類全体の大きな課題を背負いながら、教育、人権、医療、老人福祉、バリアフリーの都市計画、国際理解、国際協力などをテーマにして、各分野で活躍されている三十八年卒の会員諸氏を中心にした「共生」への思いを集め、新たな決意としたい。

地球は友達



市川 泰雄

環境

スキー雑誌の編集を担当していた時代、世界のスキー場を取材して歩いた。一九七〇年代後半、ティーンユ、ラ・プラーニュ、トロア・パレ、イゾラ二〇〇〇など、それまで何もなかったヨーロッパ・アルプスの雪の山中に、突然超近代的なスキーリゾートが出現した。小さな山の村だったシャモニやバルジゼールも大規模に開発され、近代的なスキーリゾートへと変身していった。フランスはこの事業にSNOW計画と名付けた。

おりしも、高度経済成長時代を走

り続けていた日本にも、この開発の波は押し寄せてきた。苗場、斑尾高原、安比高原、トマム、サホロ、ルスツ高原、キロロなどそれまで何もなかった雪の山の中に、大型のスキーリゾートが出現した。

自然を求めて雪山にやってきた人々は、やがてこれらの近代的施設から、足を遠のけていった。人気のなくなったアルプス山中の巨大なコンクリートの建物や、雪山に張り巡らされたトラムのワイヤーが、いま無機質だ。

「地球と共に生きる」ことが軽視された結果だった。経済効果を期待する開発と自然保護、この相容れない二つのテーマの間で、人々は苦悩してきた。春秋林道の敷設を人々は反対した結果、ブナの原生林「白神山地」は、いま世界遺産になった。生物は地球でなければ生きていけない。大気がなければ生きていけない。

い。地球を直径一メートルの球にたとえれば、その上を被う大気は一ミリに満たない薄い膜でしかない。宇宙から奇跡の生還を遂げたアポロ十三号の宇宙飛行士は、

「宇宙ロケットで地球を飛び立てば、たった三〜四分で大気圏を突き抜けてしまう。そこはもう空気も光もない生物は生きられない真空の世界だ。ガラスのように壊れやすい地球の上で、人間同士が戦争をし、かけがえない大気を破壊している。なんとおろかなことか」と。

今、地球は砂漠化が進んでいる。北京の地下水の水位は下がり、温暖化による極海の氷解で海水位は上がってきた。内分泌かく乱化学物質「環境ホルモン」も人間が自ら作り出している。二十一世紀に突入した今、子供たちが、人間が、未来永劫生存し続けていくために、いま、我々がやらなければならない。

ければいけないことは、いかに地球と仲良く共存していくかということだ。

山に登る。山で遭難して奇跡的に生還した人間は、自然の恐ろしさを必ず口にする。自然と仲良く生きた人だけが生還する。自然と戦った人間は帰ってこない。

自然を「保護」というおこた言いがあつた。人間も自然の一部だ。保護するのではなく、自然といかに仲良く暮らしていくかである。二十一世紀は共生の時代だ。

(出版社勤務)

水の環境を守る



宮崎 章

水は、我々の生活に無くてはならないものである。飲料水としてはもちろんのこと、工業や農業においても欠かすことはできない。ところが、近年の産業の発展や、我々の生活の高度化等も関連して、水中の有害化学物質の種類が増え続けている。ごく最近では、人間のホルモン作用の異常をもたらす「内分泌かく乱物質（環境ホルモン）」などは、その典型的な例であろう。化学物質の種類が増えているばかりではなく、問題となる濃度が非常に低くなっていることも大きな問題

点である。例えば、近年、ダイオキシン類の排水基準、環境基準が決められた。排水基準は、対象となる工場から排出される排水中のダイオキシン類がその濃度以下でなければならぬ濃度であり、環境基準は、河川や湖沼、海洋などの水の中のダイオキシン類の濃度が、その値以下でなければならぬ基準である。ダイオキシン類の排水基準は、10ピコグラム・TEQ/L、環境基準は1ピコグラム・TEQ/Lである。ここで、TEQというのは、ダイオキシン類にはいろいろな種類の化合物があるので、最も毒性が強い化合物に換算した場合の濃度である。また、ピコグラムというのは、 10^{-12} グラムである。

10^{-12} といっても、どの位の割合なのか、なかなかピンと来ないであろう。分かりやすい例で考えてみよう。東京から大阪間の距離を500kmとする。その 10^{-12} は、0.00005cmとなる。このように考えると、ピコグラムという量は、非常に微量であることが分かる。

さて、このような微量を正しく計ることが環境問題の解決にも欠かすことはできない。問題となる物質の濃度を正しく計測することができなければ正しい対策を立てられない。このような微量をどのようにして測定するのであろうか？

ご存知のように、有害物質にも、ダイオキシン類のような有機物質と、水銀のような無機物質がある。

有機物質はガスクロマトグラフあるいは液体クロマトグラフ、またはこれらと質量分析装置を組み合わせたガスクロマトグラフ質量分析計(GCMS)や液体クロマトグラフ質量分析計(LCMS)を用いて測定される。無機物質は、いろいろな方法で分析されているが、現在高感度な方法として使われているのが、プラズマ質量分析計である。この例でも分かるように、高感度分析を行う場合には質量分析装置が使われていることは興味深い。

しかし、有害物質などを分析する場合には、装置だけあれば可能というわけではない。その装置で測定するまでの、試料からの目的物質の抽出などに、複雑で時間が係る操作が必要である。この操作をきちんと行わないと正しい測定結果は得られない。新聞などで排水の測定値の結果などが報道されることがあるが、その裏には分析技術者の並々ならぬ苦勞があることを知っていただければと思う。

(公務員・研究機関勤務)

日に新たな教育の鐘

教育



大村 紘一郎

教育の行き着く先に、子供の底抜けの笑顔を目指しているのに、現実

というものがどこか欠けていて、その期待は時として潰されてしまします。私たちの心の中にある「教育の実体」とは一体何でしょうか。

「ある点」を取れないことが「悪」ですか。「ある高校」に学んでいることが「劣」ですか。「ある家」に生まれたことが「不幸」ですか。どう言い訳したにしても、私たちの本音には、社会階層の上へ伸びよ、大多数の中の限られた上の方の少数になれ、という方向だけが突出していて、その方向には明るい日が照っていて希望がもてる気がするが、逆の方向は真っ暗闇で希望など持ちようがない、という観念操作が見え見えです。

の家庭が抱える暗部が浮き彫りされたものであると解説されています。

胸が締め付けられる事例はまだありません。「お父さんは子供の頃勉強しなかったの？勉強しないとロクな仕事につけないよ」と全校集会で話した校長先生。「お宅のお子さんはどこに通っているのですか」と聞かれ、「いえ、名もない高校ですよ」と卑下する母親。自分の家の近くにある高校の正門の前を、毎朝自分の制服を隠すようにして遠くの高校に通う女子生徒。等々です。

強者と弱者を生み出す競争と差別社会との決別という方向への動きはあるのでしょうか。

ある日の朝刊の記事の中の一つの遺書に私の目は釘づけとなりました。それは私の勤務していた学校の生徒のもので、「私は父親を殺した。自ら命を絶つ。私の意見はほとんど反映されず、最終的な決定は父母が陰で話し合っただけで決まっていた。私はまるで猿回しの猿であり、サーカスのピエロのような存在だった。毎日が人間関係との闘いだだった。私の行動の源泉は他者に対する敵愾心・競争心・徹底した不信任感だけだった。今でも私の心の中には友情や愛、人への信頼感、協調性などといった普通の人間感情の入り込むスキはない。文化祭や体育祭に熱中する級友をしつとした。」と訴えている。受験競争にゆがめられた現代

昨年、知的障害を持つ生徒が私の勤務校を受験しました。その生徒の「受験に学力試験があるけど、例えば車椅子の子に百メートル競争の体力試験があったら、その子は合格できないよね。本人にはどうしようもない理由で読み書きできないのに、学力テストで合否が決められることは絶対おかしい」という素朴な疑問と、「中学校までと同じようにほかの子供とともに学校生活を送らせた」という親の願いを受け、障害の程度に応じたハンデを補う方法を考えて学力検査を実施しました。その生徒の合格の願いを適えることはできなかつたけれど、「高校生になったら、やりたいことがいっぱいあるんだ」と、再受験に希望を抱いて深

刺と頑張っています。

全国的にも、養護学校などでの「分離教育」から普通学校での「統合教育」への移行が徐々に進みつつあります。教育についても、『肢体不自由の人も人間、幼な子どもも年寄りも人間、外国人も日本人も人間、みんなみんな同じ人間、人間は平等でしかも人間であるというだけで高貴なのだ』という原点に立つことが『日新鐘』の願いだと考えます。

(高校校長)

ジェンダー・フリーと学校教育



宮 由里子

小学校に吹く新しい風

その一《サッカー》

武蔵野を吹きぬける冬の風は冷たい。それでも体育の時間になると、子供たちは元気に校庭に飛び出して行く。

今日はサッカーだ。サッカーのチームは男女混合である。男子は地域のクラブチームでやっている子も多いため、よく知っていて動きも活発であるが、女子もなかなかのものである。男子と一緒にボールを追いかけて走り回ったり、パスを受けたり、シュートをしたりして大変な活躍をする。女子が点を入れたときには、

飛び上がって大喜びをしている。

男女の混合チームは、和やかで活気に満ちている。

その二《運動会》

運動会の花形の応援団。女の子の応援団も華やかでいい。細かいけれど、よく通る声で全体を仕切り、動きもさっそうとしている。

徒競走も男女混合で走る。ほぼ同タイムの子供どうしで走るから、一等地が女子になったり、男子がびりになったりしても、ごく当たり前のこととして受け止められている。

その三《出席簿》

四月になって新学年を迎えると、学級の名簿を新しく作る。名簿の順番は、男女混合の五十音順になっている。学校では、男子が先、女子が後の名簿が長い間使われてきたが、最近では混合名簿を採用している学校も増えている。この混合名簿がきっかけになって、教師や子供たちの意識も変わってきた。昔ながらの慣習でやっていた男女のグループ分けや持ち物の色や形を変えること、男女で異なる役割や期待を課すことや扱いをすることなどについての見直しをし、 unnecessary 性差をなくすようにした。児童会や学校行事、学級の活動などでも、女子が積極的にリーダーシップをとるようになってきた。

私達は今までに「女らしさ・男らしさ」と言われてきたものや「男の役割・女の役割」とみなされてきたものを、何の疑問も持たずに受け入

れてきた。又、これらによって、生き方や性格、行動等の面で制約されてきたことも多かった。しかし、これらは、社会的・文化的に作られた性(ジェンダー)であって、生まれ

た時から備わっているものではない。これからは、男女それぞれが性別を超えて、一人の人間として、自分の能力や行動、生き方を広げることのできる社会をつくっていきたい。

そのためには、子供たちがジェンダーにとらわれず、自由に考え、行動できる学校生活を実現していきたい。男性も女性も、個人として、また、平等な存在として尊重されながら、共に支えあい、共に分かちあって生きる社会を目指して。

(小学校教員)

ハンセン病と人権



山田 雅康

私は、仕事柄、縁あってハンセン病の人権問題とかかわってきました。

日本のハンセン病の患者さんたちは、戦前・戦後を通じて一貫して自己犠牲を求められ、人権侵害をものともしない施策のもとに、長い間療養所に収容されてきました。ワゼクトミー(断種手術)を受け、戸籍名とは違う名のもとにアイデンティティも奪われて日本社会から隔絶され

てきたのです。菌の感染力が本来弱いこともわかり、プロミンやDDSという薬でかなり治るようになって

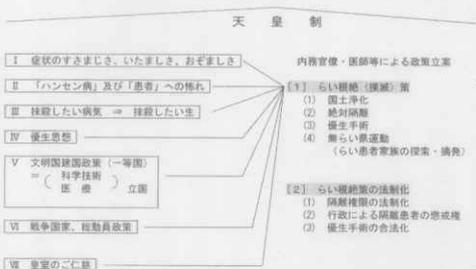
もそれは続き、「らい予防法」が廃止されたのは平成八年のことです。これまでの、ハンセン病に対する日本の医療政策はどうだったのでしょうか。「らい根絶(撲滅)」のために左

図のような政策がとられていたのです。(一) 国土浄化、(二) 絶対隔離、(三) 優生手術、そして(四) らい患者家族の探索、摘発による無らい県運動など。

この中にある「根絶」「浄化(バージ・クレンジング)」「絶対隔離(強制収容)」「探索・摘発」等の一群のキーワードを見ていて、私はこれらのキーワードが他でも使われていることにはたと思ひ至りました。

そう、それらは、ナチスの対ユダヤ

ハンセン病に対する日本の医療政策を生みだした構造



人や政敵、障害者等に対する政策のキーワードでもあり、スターリン治下での対「ブルジョアジー」の政策でもあったのです。中国での文革やカンボジアのポルポト治下での政策、現在のユーゴ内紛下での政策にまで拡げてみると、これらのキーワードは二十世紀の人類社会が「悪者」と認めめる対象に対する処理のし方のキーワードであることが見えてきます。

ヒトラーがユダヤ人の絶滅策を決定した時「最終解決」という言葉を使い、その意味するところがわからないできましたが、以上の文脈のもとに見ると「最終解決」の意味がわかるように思えます。

日本の「らい根絶策」も二十世紀の時代のキーワードに大きく波動したものであったことが見えてきます。このように見えますと、「悪者の根絶」は二十世紀を通じての最高価値であり、国際的に共通するキーワードであったことがわかります。

（弁護士）



これからの老人医療 ―田舎医者のぼやき



薬袋 俊次

第四次医療法改正、介護保険法等々の法が国会を通り施行され、わが国は世界中で他に類のない新しい理想の医療・福祉国家を目指して動き始めました。

長期入院による膨大に膨れ上がった老人医療費の無駄をなくすべく介護保険を導入し、病院から介護施設を経て在宅でのケアをと目論んだところが、現実には病院での入院は減ったものの、在宅でのケアの受入れ皿が十分でないために、一旦は在宅になった老人が再び介護療養型医療施設に戻るといった現象が生じてこの面での施設サービス利用費が膨らんできています。このようにいわゆる社会的入院による費用の無駄は、医療費から介護サービス利用費に呼び方が変わっただけで、中身は一向に変わっていないのです。以上のことはほんの氷山の一角で、如何に政府が理想の医療・福祉の御旗の元に目先のことだけを机上の試算だけで実行に移し、国民と我々医療従事者たちを混乱させているのか考えて頂きたい。高齢者の医療費の自己負担分の増加も毎年のように行われています。

この二年間に私のクリニックでも高齢者の受診率が激減しました。私の住む大野市は人口四万の農林業を中心とした典型的な地方農村都市で六十五歳以上の高齢者は約二四%を占めています。そのうち約八六%の人は年金受給者です。医療費の自己負担が増え、そのうえ介護保険の第一号被保険者として保険料が毎月年金から徴収されると、他に収入のない彼らは負担を減らすために今まで通院していた病院での治療を、五回を三回、三回を二回にと減らして我慢しているのです。一日に三回飲まなければならぬ薬も、もったいなからと二回に減らしたために、症状が悪化した患者さんもいます。

更に次のような事も起こっています。知っている方は殆どいないと思いますが、総合病院以外の一般の病院診療所を対象にした「内服薬の六剤処方規定」という、本当に馬鹿げたというより患者さんに対する医療行為を無視した規定があります。薬の種類（散剤、錠剤、水薬など）、薬価、投与方法などによって薬の数を制限し医療費のうちの薬剤料を減らそうという試みです。ご存じのように高齢者は人によってはいくつもの病気や障害を持っているために必然的に薬が増えます。例えば七十歳の農業に従事する男性の方で、糖尿病、高血圧、高脂血症の患者さんが足腰の骨の変形で痛みを訴え、更に前立腺肥大のため小便が近く夜眠れ

ないから薬を欲しいと言われるとあつという間に薬の量が七、八剤に増えます。このまま処方し、医療費を請求しますと医療機関は一割薬剤料をカットされますので、仕方なくいくつかの症状に対しては他の医療施設を紹介することになります。

受診する医療施設が増えれば当然病院を代わる度に初診料・再診料も増え、交通費も増え；今から年若い病気になるかもしれない同窓諸兄のみなさん、どうされますか？（医師）

お父さんといっしょ



新海 行子

近頃、患児が父親と来院することが増えた。横浜の片田舎で診療所を始めて二十年、住宅と、畑や樹林が程よく配置されている土地である。都市としては三世代同居の家庭の割合が多い方であろう。診察室を訪れる子供達を通して、この二十年間の家庭や世の中のあるような変化が感じとれる。

その一つは、父親と来る子が増えた事である。母親と来る子が圧倒的に多かった頃も、父と共に来る子はいたが、それはごく少数であった。不規則な勤務体制や、自宅での仕事をもつそれらの父親達の顔は今でもパツと思ひ浮かぶ。この二、三年、

父との来院は珍しい事ではなく、週休二日制が行き渡って、父親の休日に患児が父と来院するのはありふれた事だ。その背景には、不況で父親が暇になった事、母親も働かざるを得なくなった事などがきっかけではあるが、女性達が勤労に強い意欲を示すようになった事がある。そして子育てに夫のみならず、自分達の両親をも巻き込み、結果、祖父母と来院する子も増えた。それは多くの場合、家庭でも母親に代わって父、又は祖父母が子供の世話をし深く関わりふれあっている事を意味する。意思の疎通のよい家庭では、それは子供にとって幸いな事だ。母親とのワンパターンになりがちな関係だけでなく、自分を慈しんでくれる複数の人とのふれあいによって子供はよりよく育つだろう。叱られても慰めてくれる人がいる、寂しくても励ましてくれる人がいる、寂しくても暖かく包んでくれる人がいる。いろんな場面で自分に関心をもってくれて、一緒に考えたり共感したりしてくれる人達が身近にいる事で子供は安心して日々を過ごす。毎日繰り返されるそうしたふれあいの実感は、人が自信をもって生きていく事の土台となるに違いない。またそれは子供を育てる周りの人々をも心豊かにし、生活にはりをもたらず。子を育てる事で大人も育つ。子を持つて知るの、親の恩だけでなく子の恩をも知るのである。人生の意味な

どあらためて考えずとも日々の暮らしがいとおしく思えることだろう。

父親との来院の増加と同じく目立つようになったのは、子供が片親となるケースである。両親の離婚によるが、残念ながらこちらもこの数年珍しい事ではなくなってしまう。当初は暴力的、一方的な夫におとなしい妻の組み合わせが多かったが、最近は優しい夫に、はっきり主張する妻の組み合わせが増えている。事情がそうさせるとはいえ、この場合も女性の勤労意欲は旺盛である。しっかりと仕事するのも大切だが、産んだからには子供にとってどうしたら一番よいのか、離婚する前にじっくり夫婦で考えて欲しい。この間までお父さんといっしょだった子供から、姓が変わると共にその父親の影が消え、タブーとなつていくのか話題にもしなくなるのは痛ましい。一概にそんな家庭が不幸とはいえないかもしれない。が、幸福な家庭はそれぞれ違つていてもそれなりに幸せであり、そうでない家庭はそのおもむきがよく似ているように思えてならない。大切にすべきものは何か、よくよく考えながら日々を送りたいと思う。

(医師)

ある老人ホームで

老人福祉



矢口 百合子

二〇〇一年のお正月、ここ武蔵野の一角にある当有料老人ホームで、お世話させて戴いている二十数名の方々にこんなアンケートをいたしました。質問一、二十世紀で、一番楽しかった事は？Nさん、あなたは大きな声で答えられましたね。子育てをしていた時「質問その二、生まれ変わったら、男性？女性？Nさん即座に、「男性、政治家になりましたか」質問その三、二十一世紀を迎えどんな年になったらいいでしょうか？Nさん、こう答えられましたね、「暮らしやすい日本になる様政治が落ち着いて欲しい。百才迄生きるからよろしく」と。大正五年生まれのあなたが当施設に入られたのは、二年前の四月でした。

その年の七月の七夕様の短冊に皆でお願ひ事を書いた日、Nさんは「早く死にたい、早くコロリと死にたい」と。私達はさんざん迷いましたが、その短冊を笹の葉に取り付けました。Nさんは、足が御不自由で、殆んど車イスでの移動生活、両手をつないで歩行援助をすると、十数メートルほど歩く事が出来ず。視力も衰えてきていますが、聴力は健全、何よりも記憶力の素晴らしさと、頭の回転の早さにはスタッフも舌を巻く事がしばしばでした。大蔵省に勤められていた御主人に先立たれ、長男夫婦と都内のマンションに同居されていました。ある日、長男に「老人ホームに入りたい」と言われたそ

うです。

ここに入居された最初の日、誰かになく何度も言っていました。

「私が決めて、ここに入ったの」と。

二男二女に恵まれ、食事も更衣も時間をかければ何とか自力で出来る日常生活、お嫁さんのことも「良い人だ」といつも誉めていました。当初は、顔つきも険しく「私がここに入るのを決めたの」と何度となく言われ、トイレの介助も「結構です、一人で行けますから」と、頑として私達の介護を断わり続けました。Nさん、あなたが、お昼寝のベッドの中で、天井をじっと見ている姿を何回も見かけましたよ。初めて「トイレに行きたいのでお願いします」と言われた時、どんなに嬉しかったか。ゆっくりお話を聞ける時がありました。御自身の気の強さを嘆き、「早く主人の居るお墓に入りたい、でも又夫婦ゲンカをする困るね」と言われ、「家に帰ってから入るからいいよ」と、何回も入浴を拒否されていましたね。もう頭にくると言っていた施設職員の二十代のSさん、可愛くないとブンブンしていた三十代のKさん。だから長男夫婦と同居出来なかったのよと納得顔で言っていた四十代のIさん。一年過ぎたある日、息子、娘さん達がどんなにイイ子供だったかを穏やかな顔で話してくれるNさんが居ました。トイレ介助も、「ちょっとだけ手伝わせてね」と言う私に、「どうも有難う、お願いしま

す”と大きな声で答えて下さる様になりまして。Nさん、まだまだ人生捨てたものではありませんよ、四月のお花見には、甘酒を用意しますからね。今年の七夕の短冊には、きつとこう書かれるでしょう。”百歳まで生きるからよろしく!”と。

(老人施設ボランティア)

共生・循環のまちづくり



望月 由彦

都市計画

二十一世紀を迎えた今、二十世紀末の混迷を極めた社会を振り返り、今後の都市づくりについて考えてみたい。

二十世紀末の社会は、大気汚染、交通渋滞、廃棄物処理、水不足といった生活環境への不満と、政治的不安定さを初めとし、凶悪犯罪の多発、教育現場の荒廃、高齢社会への不安といった一般生活への不安感、さらには人類生存をおびやかすエネルギー資源の枯渇や地球規模の環境破壊に直面してきた。

都市はこれらの不満不安に対して、直接間接に大きく関与してきた。歴史的に都市を見ても、古代から森などの自然を食い潰しては生き死にを繰り返してきた。二十世紀の都市も又、大量消費を背景とした物理的インフラの整備にのみ資力を投

入し、社会的インフラや自然への配慮を忘却してきた。今世紀の都市は新たな思想を持った「まちづくり」により作り出され又は改造されるべきである。「まち」という意味には、ハードとソフトの統合性への願いと、共生の思想の復活が込められている。共生とは「種類の異なる生物が、同一地域に棲息し、互いの利益を尊重しながら共同生活を営むこと」である。ひとりで云えば「やさしさ」のことであろう。又共生の思想には永続性が含まれており従って必然的に循環の思想又はシステムを伴うものである。二十世紀の多くの負債を少しでも返しつつ新たな方向をさぐる為にはこの共生・循環の思想を持った「まちづくり」がどうしても必要となるだろう。

この方向性は、生命と環境をあつかうエコロジー的発想をもとに、省エネ、省資源、リサイクル等をキーワードに構築されるだろう。最後に、四半世紀前から、都市の荒廃とコミュニティの崩壊とに苦しんできた米国の新しいまちづくりを紹介し、今世紀の日本のその一助としたい。すなわち永続する社会づくりを目指す「サステイナブル・コミュニティ」である。その基本的考え方は、米国の抱える社会的問題をコミュニティの崩壊ととらえ、その原因を自動車に過度に依存したエネルギー大量消費型の町づくりにあるとする。解決策として、生態系に配慮し、自動車

への依存を減らした計画とし、強いアイデンティティを取り戻すコミュニティの創造を目指すとする。その原則は次の様なものである。

- 一、町を形成する諸施設は、機能的であると同時に、相互に歩行可能内にあること。
- 二、その為には、バス・路面電車等の公共機関が適切にシステム配置されること。
- 三、年齢、所得毎に様々なタイプの住宅が用意され、域内に職場が用意されること。
- 四、自動車道は極力狭くし、歩道・自転車道を域内に効率的にネットワーク化する。
- 五、自然は極力残し、資源節約、廃棄物最小化、自然排水利用、水のリサイクル化の効果的利用、日照・通風の最大限の利用すること。
- 六、森林緑地を確保し、野生生物との共生を図りつつ、食料の自給自足を目指すこと。

(建設会社勤務)

灼熱の地に生きる遊牧民



保坂 延彦

国際理解

私が人類学をかじって、六年がたった頃である。

一九九八年、五月と八月、二度、私は東アフリカ・北ケニアのラクダ

遊牧民、レンデー族の集落に入った。岩石半砂漠の土地。日中は摂氏四十度を越す。こんな地に二万人程の遊牧民が暮らしていた。世界は広いと感じないではいられない。農耕、漁撈の民としての私、日本人としては、遊牧の暮らしは驚異の連続であった。十日ほどすると、不思議なことに、自分が日本人であり、東京の都会暮らしであることを忘れた。忘れた頃に、老若男女の黒人たちが私の許に寄ってきた。目と目。手と手。笑いと笑いで会話が成立した。

一九八〇年と一九八四年、北ケニアは二度にわたり大旱魃に見舞われ多くの家畜と人間が命を奪われた。が、この旱魃はレンデー族に知恵を残した。大型家畜であるラクダを早々と殺し、食していった部族は、長びく旱魃に耐えられず、多くの命を落としていった。反対に、ラクダを神と崇めて暮らしてきたレンデー族は小型家畜のヤギや羊を処理してラクダは残した。少ない食料を分配することで部族の共生していく知恵を知った。ラクダは少ない給水に耐える力をもっていたからだ。この旱魃は部族の結束と絆を固いものにした。わずかな食料がもたらした其同体の芽生えであった。

電気もガスも水道もない一か月がすぎた。私の体は乾燥した大地の中に溶けていった。ラクダ遊牧民の暮らしぶりが、わずかながら見えてきた。ある日、十一歳になるホロホ

ロ・サンバカと言う少女が現れた。ホロホロは数か月すると、ヤギや羊の一日放牧の仕事に出て、遊牧民の女性として自立する一歩を踏み出さなければならず、遊牧よりも学校に行きたいと私に懇願した。私はただ笑っていた。懇願した日から、毎日、少女は私のそばから離れずに一日を過ごしていた。集落に噂が広がり、私はいつの間にか少女の父親になることになってしまった。

そんな時、突然大きなイナゴの大群が集落を襲った。長老たちは私にこの地を離れるように進めた。私は離れる前に、三日をかけて、遊牧している若者たちを訪ねた。汗と埃にまみれ、ラクダと生きる若者たちの姿を見た。若者たちは年に一度か二度の祭りの日にしか集落に戻れない。戻っても、一日ですぐ遊牧に出る。ラクダと人間が共生していくための過酷な世界を垣間見た。だが、彼らの生活様式は人類が多様であることの必然を教えてくれた。遠くで雨雲が見えた。「雨がくるんだ?」と尋ねると、「そうだ」と答え、「雨は私たちにあって、決して恵みではない、むしろ病をもたらすことの方が多い」と長老はいった。雨が降り、草木が多くなると、家畜は無闇になんでも食べて、倒れるという。ここでは早魃も困るが雨も恵みにはならないのだ。私は雨が来る前に集落を去ることにした。

夢のような日々は、今でも体のど

こかに残り、ふと、立ち止まる時がある。ビルとビルの谷間、満員電車の窓ガラスに、少女ホロホロ・サンバカの涙に濡れた瞳が現れては消えていくからだ。二〇〇一年、一月、ホロホロが放牧の仕事に出たという話を耳にした。

中国に対して抱く過剰な期待や誤解も少なくなるでしょう。現在の中国は沢山の課題を抱えながらも国民の生活向上を最重要施策とし、強いリーダーシップで行政、金融、国有企業改革を断行しています。北京市街は自転車と自動車が出錯し激しい渋滞ですが、車は殆どが外資との合弁による新車です。当局が建国五十周年を機に排気ガス規制に抵触する車を強制的に排除したからです。

(映画監督)

共生の環を広げよう

国際協力



鳥居 克彦

私は住宅関連メーカーに勤務し海外関係の仕事をしている関係で国際情勢を三次元的な要素で捉えています。縦軸に民族、宗教、生活、文化、といった人間の考えを構成する要素、横軸に政治、経済、環境問題などの社会現象、垂直軸に時系列をとった視点です。

中国の活力は日本の高度成長期を彷彿させます。三年前から住宅の私有化政策が推進され、民営化されたデベロップャーによって、主力都市では高層ビルが、都市近郊では住宅団地が次々に建設中です。住宅の私有化は払い下げ賃貸住宅の改装需要をも喚起し、秋葉原のような住宅建材街が雨後の筍のようにできています。

環境保護というボーダーレスの課題解決には人類の痛みを知り共に知恵を出し合い課題を解決する国境を越えた協同作業が必要です。これが共生の原点でしょうし、この環を広げることが我々自身のためだと思います。

(住宅関連会社勤務)

これからの共生を考えるときに、どんなに政治、経済がグローバル化しようとも、発想の原点を構成する民族、宗教、文化、自然は国・地域で異なるという前提が必要です。中国との関係も異文化をベースとし、よく見たら漢字の一部など共通する部分もあるな、と考えれば我々

が、石油需要も増大し二〇一〇年までには消費の三分の一が輸入になるでしょう。世界人口の二二%を擁する中国の耕地は七%です。また生態破壊も深刻で、多くの都市地下水が汚染されているともいわれられています。北部中国における水不足も深刻です。

中国に光の部分があれば、改革開放政策に伴う貧富の拡大、地域間格差、失業問題、環境問題など影の部分も見られます。一九九五年、中国沿海部住民の関心は失業、レイオフ、子供の教育、社会治安、腐敗、汚職問題等の順でしたが、二〇〇〇年調査では環境保護問題が一位にランクされました。日本は豊かな生活を得る代償に環境汚染・破壊を経験し、環境保護のノウハウを既に蓄積しています。政府部内では中国へのODAのあり方が問題になっていますが、単なる資金貸与でなく、官民一体で中国の抱える環境問題解決に役立つノウハウ移転に使えば歓迎される事業となるでしょう。水不足の深刻化は黄砂の飛来増加というかたちで日本にも大きな環境問題をもたらしかねません。



一紅会だより

第4回新春講演会
2001年1月20日(土) アルカディア市ヶ谷



されている新春講演会が、一紅会の名声?を高め、東京同窓会の皆様にも注目されるようになりました。

第一回新春講演会は、平成十年一月銀座東急ホテルで開かれ、作家、尾辻紙子氏(昭和二十八年卒)が「わたしのライフワーク」というテーマで話されました。その時の参加者は約五十名でした。第二回は平成十一年一月、四谷クラブで開催、前警視總監、井上幸彦氏(昭和三十一年卒)の「オウムと闘いし日々」の講演に約九十名が参加しました。

第三回は、平成十二年一月、如水会館にて平野忠彦氏(昭和三十一年卒)の「歌とおはなし」、第四回は、今年一月、アルカディア市ヶ谷にて開催されました。島田紀夫氏(昭和三十四年卒)による「近代絵画の流れ、バルビゾン派から印象派へ」、男女あわせ、約百四十名もの参加があり大好評でした。

各講演会のあとは、懇親会「ロリポップパーティー」で、同窓の皆様との楽しい語らいの時を作ってきました。東京同窓会の男性の参加も年々増えるようになり、いまや一紅会の目玉?イベントになってきました。

将来、この講演会が同じテーマでシリーズ化されるのか、多様なカルチャーの会になるのか、どうぞ楽しみに。

甲府一高女性ネットワーク「一紅会」は、平成八年三月に発足以来、六年間にわたって活動を続けています。当初は、各学年の女性代表三十名によって会合がもたれておりましたが、現在は各学年の代表幹事四十五名がパイプ役となり、各分野で活躍している同窓生が多数参加しています。

一紅会の幹事会は、十一月、六月、七月と年三回開催されています。又、七月末に、次期学年幹事への引き継ぎが行われています。

何といっても、ここ数年、毎年催

されてお持ち下さい。既に来春の第五回新春講演会にむけて、新たなプロジェクト委員会が立ちあがりました。皆様のご協力、ご参加をお待ちしています。



現在の体制については、会長の五十嵐節子氏(昭和二十九年卒)、副会長の井上若子氏(昭和三十年卒)に加え昨年十一月十三日、第十四回「一紅会」幹事会において、念願であった会計役員の設置が皆様の賛同により、正式に認められました。これにより、会長、副会長、会計の小松寿恵氏(昭和三十七年卒)の三役による万全の体制をつくりあげる事が出来ました。

東京同窓会ともども、「一紅会」の今後の活躍をご期待下さい。

昭和三十八年当番幹事一同

編集後記

最近、テレビで木下恵介監督の松竹映画「二人で歩いた幾春秋」を観た。映画の一部に三十八年卒の私たちが在学していた頃の一高が舞台となっている。佐田啓二や高峰秀子が一高に来た時、級友たちと埃りっほい校庭を走ってロケ現場に集まった情景が脳裏をよぎる。この記念誌の編集の過程で、いつも思い出されたのはあの映画のロケだった。遠い将来にかすかな夢を与えてくれた出来事だったような気がする。そして今、五十代半ばを過ぎた私たちがいる。私を含め、それぞれがあの学舎で抱いた夢の行方を検証しつつ、新たな世紀の道をどこまでも歩き続けていきたい。

(渡辺房男)

表紙のことば

「共生」が今回のテーマだとのこと、テーマにあわせるのに草をとりあげてみた。いきることへの執着心はどこに残っている。植物の中で草木とよばれ、さらに草はいちばん長い生命力を持っていると聞く。絵画で草そのものは主人公になりにくい、記念誌にちなんで草のイメージをスケッチしてみた。

(北村清巳)



百歳感謝

甲府中学

大正十一年

第三十三回卒業

(元杉並区長)

若草町 三恵村

加藤豊三

明治三十五年九月六日生

現住所

〒一六七〇〇〇二三

東京都杉並区上井草
二丁目十九番5号



印刷のご用命は
最先端デジタル技術の
サンニチ印刷へ。



山日YBSグループ

山梨日日新聞社 山梨放送 アドブレン社 サンニチ印刷 YBSトラベル YBSリス
タウン企画 山日リース 山梨文化学園 デジタルデビジョン 山梨文化会館

(株)サンニチ印刷 〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-10-8 ケアイ新宿ビル ☎03-3374-6241(代表)
〒400-8505 甲府市北口2-6-10 ☎055-231-3000(電話番号案内台)

J2のヴァンフォーレ甲府を私たちも応援しています。



境川カントリー倶楽部

代表取締役社長

金丸 信吾 (38年卒)

〒406-0851 山梨県東八代郡境川村小黒坂2266
TEL.055-266-5011(代) FAX.055-266-4689

東京営業所 TEL.042-339-8669
<http://www.alps-net.or.jp/sakaigawa/>

東京會館オンラインストア<スウィートプラザ>オープン!

ホームページから、おいしい東京會館をお届け。

東京會館 ONLINE STORE

会社案内 | サイトマップ | お問い合わせ

Last Updated on: 2001.3.1

TokyoKaikan Shopping Cart FAQ Shipping Contact Us

◆MSG-TU◆

Sweet Plaza
TOKYO KAIKAN

「おいしいお知らせ」
カマンベールチーズケーキが新登場
3月16日までのご注文に限り送料が300円!
(通常は、800円)

今月のケーキ
ブティガトー
ガトーロゼッタ
ブティファール
デセル
スープニニ餅
特製料理缶詰
特選フルーツセット
特選半ソフト

お問い合わせ
お支払い方法
ご配送
ご返品
お問い合わせ

>>贈答品ギフトの
>>操作方法

「スウィートプラザ」は、日本全国のショッピングモール「タウンリンク」の買い場システムを基盤に運営しています。

今月のケーキは、カマンベールチーズケーキ
ソフトな生地にカマンベールチーズをのせて、新鮮なカマンベールを
スライスしたケーキに仕上げました。
(受注期間:3月1日~4月30日)

DIRECT PHONE
03-3699-0111

【東京會館WebSite】による閲覧
【ショッピングカート】は別途送料
【東京會館について】は「サイトマップ」お問い合わせ
Copyright 2000 By TokyoKaikan Inc.

24時間 受付OK

<http://www.kaikan.co.jp/shop>

オフィスから、ご自宅から、外出先から、24時間いつでもご注文いただけ、日本全国へスムーズにお届けいたします。2000年のチャレンジのひとつにインターネットショッピングの便利さと楽しさを、体験してみませんか?

笠井莞爾 (昭和33年卒)

東京會館

 千代田区丸の内3-2-1
☎(03)3215-2111

「入って、当って "トクトク21" キャンペーン」



平成13年4月2日(月)～平成13年8月31日(金)

「山梨ちゅうぎんトクトク倶楽部に平成13年8月31日(金)までにお申込みされた方」の中から抽選でMDプレーヤーなどをプレゼント!!

＜山梨ちゅうぎんトクトク倶楽部＞はお客様との各種お取引項目(給料・年金、住宅ローン、公共料金など)にポイントをお付けし、その合計ポイントに応じてさまざまな特典を提供するサービスです。

特典には、個人ローンの金利優遇やATMの時間外手数料無料など、うれしい特典がいっぱいです。

くわしくは店頭で

トクトク倶楽部お申込みはATMでもハガキでもOK!! お申込みは無料です!!

お問い合わせ

0120-201862

受付時間:9:00～17:00
(月～金曜日、ただし銀行休業日は除きます。)

山梨中央銀行

藤原公認会計士・税理士事務所
(株)グローブライト総合研究所・藤原会計事務所

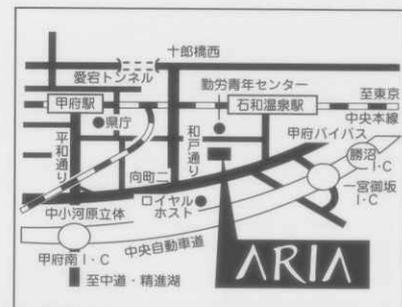
Sindbad for the 21st.century

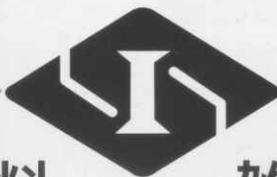


代表取締役
公認会計士
税理士

藤原 洋

本 部 〒400-0811 山梨県甲府市川田町アリア203
Phone(055)220-1770 FAX(055)220-1774
東京事務所 〒166-0011 東京都杉並区梅里一丁目6-12 リーラ新高円寺307
Phone(055)220-1770 FAX(055)220-1774
自 宅 〒400-0027 山梨県甲府市富士見一丁目2番13号
Phone(055)253-5855 FAX(055)251-5232





飼 料 雜 穀

飯島産業株式会社

代表取締役 飯島 保彦 (昭和38年度卒)

本 社 甲府市寿町3番16号
電話 (055) 224-2501 (代)
FAX (055) 224-2531
営業所 甲府市国母六丁目6番4号
電話 (055) 226-5211 (代)

土地・建物・企業施設企画開発

(有)ハウス工業

代表取締役社長 広瀬 修 (昭和38年卒)

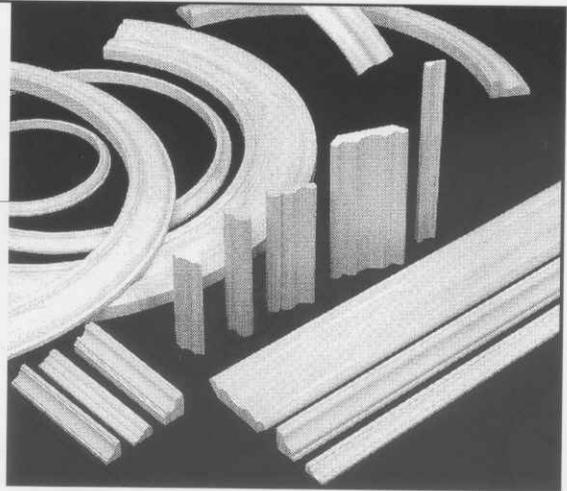
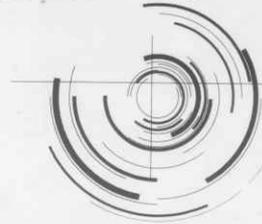
甲府市徳行1-10-1 (アルプス通り)

TEL 055-222-5733

Fujiken

株式会社 フジケン

異形型枠・塗装合板 高級内装造作材メーカー



41卒
専務取締役 藤原 章紘
38卒
取締役 白田 恵

- **フジマルチ**
(多次元曲面型枠・高級造作材) 特許取得済
- **フジマルチアングル**
(各種コーナー・ハンチ型枠合板)
- **フジアートパネ**
(レリーフ型枠)
- **フジRパネ**
(曲面成形型合板)
- **フジRバタ**
(曲面集成木材) 実用新案取得済
- **フジベストコーナー**
(直角型枠合板) 実用新案取得済
- **異形型枠**
(円錐、球面、螺旋、舟底、その他二次曲型枠)
- **各種欠込材**
- **各種鋼製締め金具**
- **塗装型枠合板**

本社 工場 / 〒424-0065 静岡県清水市長崎598-1
TEL0543-47-4167 FAX0543-47-3857

若草 工場 / 〒400-0333 山梨県中巨摩郡若草町浅原202
TEL055-284-6001 FAX055-284-0671

須玉 工場 / 〒408-0111 山梨県北巨摩郡須玉町穴平1553-1
TEL0551-42-4282 FAX0551-42-4280

北海道工場 / 〒069-0210 北海道空知郡南幌町南10線西14
TEL011-378-5567 FAX011-378-5515

東京営業所 / TEL03-3254-8601 FAX03-3254-8602

中日本営業所 / TEL055-284-6001 FAX055-284-0671

仙台営業所 / TEL022-307-6981 FAX022-307-6982

大阪営業所 / TEL06-6266-2248 FAX06-6268-7380

福岡営業所 / TEL092-736-1760 FAX092-736-1761

デザイン室 / TEL055-225-1253 FAX055-225-1254

祝 2001年 甲府中学 甲府一高 東京同窓会

母校に大変お世話になりました

同窓 親戚の輪

柳澤十四男	昭和18年卒業
武内良祐	昭和26年卒業
武内謙之	昭和29年卒業
武内紘司	昭和38年卒業
柳澤利明	昭和45年卒業
武内有二 (旧西村)	昭和53年卒業
富樫直子 (旧武内)	昭和60年卒業
武内進悟	平成5年卒業

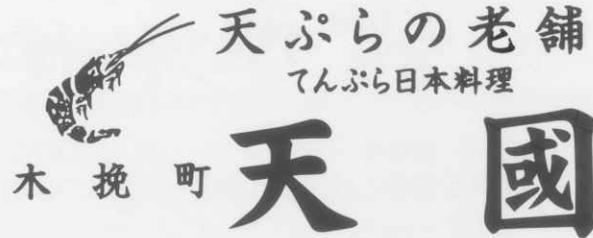
◆ヒフ科◆
林 クリニック

京王線調布駅北口下車1分
TEL/FAX 0424-87-3778

皆様が少しでも快適に毎日がすごせますよう、ちょっとでもお役に立てればうれしいと思います。

〒182-0024 東京都調布市布田1-36-8 貞光書店ビル4F

林 益子 (旧姓山田) (昭和36年卒)
〈ヒフ科専門医〉



ご来店のおりは、お知らせ下さればサービス致します。

新宿店	〒151-0051	東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-2	新宿 高島屋レストランズパーク14階	電話 03-5361-1875
日本橋店	〒103-0027	東京都中央区日本橋2-4-1	日本橋 高島屋6階	電話 03-3281-1092
柏店	〒277-0842	千葉県柏市末広町3-16	柏 高島屋 地下1階	電話 0471-44-1111 (内2181)

株式会社 甲斐國
代表取締役 剣持 甲斐太郎 (31年卒)

精密光学部品加工
研磨材料・工業薬品 } 販売
ダイヤモンド工具・水晶原石 }

株式会社 吉 澤

研磨部 甲府市住吉5丁目19-8
TEL(055)241-8438
FAX(055)241-8433
本社 甲府市丸の内2丁目8-4
TEL(055)224-3418

代表取締役 吉 澤 進 (昭和38年卒)

漢方治療専門
紹介制自由診療

花輪診療所

赤坂七番館
花輪 千春 (38年卒)

小雀医院

内科・小児科・リハビリテーション

新海 行子 (S38)

横浜市戸塚区小雀町1123-2

TEL. 045-852-2353



香港より、美味しい香港を目指して。



LUNCH : 飲茶食べ放題 大人3,000円 子供1,800円
DINNER : 料理と飲茶食べ放題 大人4,000円 子供2,400円

2階の麻布迎賓楼は、ゆったりとしたスペースで個室など落ちついた雰囲気みなさまをお迎えいたします。ワンランク上のお料理を、ゴージャスな雰囲気の中でご賞味ください。

香港ガーデン株式会社

〒106-0031 東京都港区西麻布4-5-2 FAX:03-3486-8612

TEL:03-3486-8611 予約専用03-3486-3711

河西 力 (昭和35年卒)

外科・内科・眼科・胃腸科・肛門科・介護



薬袋クリニック

院長 薬袋俊次 (S.38卒)

福井県大野市在住

朝日塾

塾長 渡邊 武

(昭和38年卒)

〒329-0205

栃木県小山市間々田1396-3

TEL(0285)45-5361

昭和38年卒業

歯科医 黒沢 斉

昭和49年八王子めじろ台にて開業し現在に至っております。皆様、いつまでもお元気で御活躍を祈っております。

〒193-0833 八王子市めじろ台4-25-4

☎ 0426 (66) 7333

処方せん調剤

さの薬局

甲府市緑が丘一丁目（塩部バス停前）

代表 佐野 哲也

（平成7年卒）

SIGN&DISPLAY

お客様のニーズに合わせた
サイン&ディスプレイ

〈株〉 **アド・アート**
イシカワ

各種屋内外サイン ネオンサイン ディスプレイ
展示会・イベント 商環境施設 ポスター
各種デザイン 企画・設計

建設業 山梨県知事許可（般）第6249号
屋外広告士・一級広告美術技能士

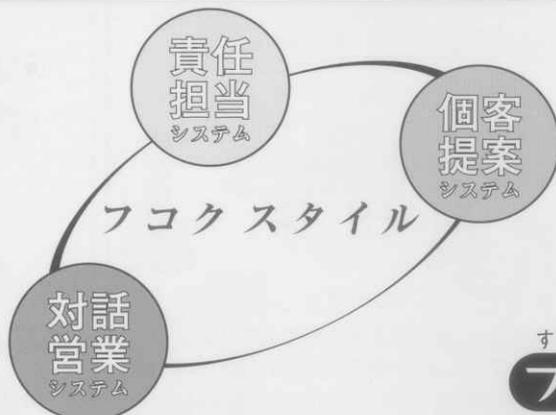
〒400-0858 山梨県甲府市相生2-8-15
TEL (055) 233-4108 (代)
FAX (055) 237-5771

取締役会長 石川 周作（昭和8年卒）
代表取締役 石川 幸夫（昭和36年卒）

E-mail: ad-art@ad-art.comlink.ne.jp



フコク生命キャラクター...上川隆也



始まる。

すてきな未来応援します

フコク生命

<http://www.fukoku-life.co.jp>

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-2 TEL03-3508-1101（大代表）

株式会社

岡村製作所

東日本支社長 土屋正樹 (S37年卒)

東日本支社 〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-20 花京院スクエア-12F
TEL. 022(712)1531 FAX. 022(712)1536

首都圏営業本部 〒107-0052 東京都港区赤坂6-1-20 国際新赤坂ビル西館10F
官公庁部 TEL. 03(5561)4031 FAX. 03(5561)4020

ハートフル・プロダクト(心のこもったモノづくり)

家庭用家具・公共施設用家具・店舗用什器・その他

第三木工有限会社

代表取締役

依田政則

〒400-0414

中巨摩郡甲西町戸田字南戸田916-18 電話(055)284-2961 FAX(055)284-2963

株式会社 メディカルアート・ラボラトリー

全日本病院協会・賛助会員

本社 〒112-0011
東京都文京区千石4-22-6 マークW318ビル2F
電話(03)5976-2583 FAX.(03)5976-9818

Labo 〒300-0011
茨城県土浦市神立中央5-4-14
電話(0298)31-0954 FAX.(0298)31-0962

"Quality of Life"

人材育成コンサルタント

代表 前田栄一

あきる野ライフデザイン研究所
〒190-0144 東京都あきる野市山田448-2
連絡先 〒191-0012 東京都日野市日野618-9
TEL (090)1617-4814 FAX(042)584-9648
E-Mail: akiruno-maeda@cam.hi-ho.ne.jp

COFFEE & GALLERY **K & M & T**

調布市布田1-36-8 TEL.0423-83-8899



医療機関とナースを結ぶ人材紹介業

東京、神奈川、埼玉、千葉に約70箇所の紹介先があります。
その中から求職者の希望や条件に合った就職先の面接を設定します。
PT、OT、薬剤師、助産婦、保健婦等の資格も歓迎。 ※来社不要 ※費用一切無料

ナースキャリア 株式会社アスク

受付 0120-67-8851 (通話料無料) URL: <http://plaza26.mbn.or.jp/~askn/>
〒193-0835 東京都八王子市千人町1-12-14

山田磯子法律事務所

山田磯子 (旧姓 古谷) (昭和38年卒)

〒635-0081
奈良県大和高田市高砂町7-17 シェーラースール島
電話 (0745) 22-6811
FAX (0745) 52-7980

さらなる進化、封筒新世紀へ



株式会社 **イムラ封筒**

メーリング東京営業所 / 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-40-5

家庭実用書の総合出版社

レイトナツク

(月刊)

こどもブティック

(季刊)

歌謡曲

(月刊)

femelle

(月刊)

ニット・洋裁・料理
手芸・園芸シリーズ

(株) **ナツク社**

東京都千代田区平河町1-8-3 ☎03-3234-2001 FAX 03-3234-6046
<http://www.boutique-sha.co.jp>
会長 志村司郎(昭20年卒) 社長 志村昌也(昭35年卒) 副社長 内藤 朗(昭46年卒)

三洋電機株式会社

常務執行役員
セミコンダクターカンパニー社長

田中 忠彦 昭和36年卒

群馬県 邑楽郡大泉町坂田1-1-1
電話 0276-61-8343

元祖 無添加わいん

そうりゅうぶどうしゅ

蒼龍葡萄酒

株式会社



山梨県東山梨郡勝沼町下岩崎1841
TEL 0553-44-0026
Fax 0553-44-3170
<http://www.wine.or.jp/soryu>
E-mail: soryu@wine.or.jp

“Global Access, Local focus”

36カ国101都市、企業の広報活動をサポートします



AZ.WORLDCOM JAPAN

The Worldcom Public Relations Group

www.worldcomgroup.com

代表取締役

廣瀬 修二 (38年卒)

アズ・ワールドコムジャパン株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂2-21-22

Tel.03-5575-3221(代), Fax.03-5575-3222

shuji@w-az.co.jp

サンリオピューロランド 劇場
全天候屋内型テーマパーク

新・光のパレード
ILLUMINANT
イルミナント 絶賛上演中

●営業日・営業時間・イベント・各種情報などのお問い合わせ
サンリオピューロランドゲストセンター
042-339-1111 (9:30-17:00 休館日を除く)
www.sanrio.co.jp/PUROLAND

©1976, 1990, 2001 SANRIO CO., LTD.

有限会社 富士タクシー

代表取締役 根津 瑛 (38年度卒)

山梨県東八代郡中道町上曾根1855

電話 (055)266-2424

—ネームプレートは製品の顔—

有限会社
三協ネームプレート製作所

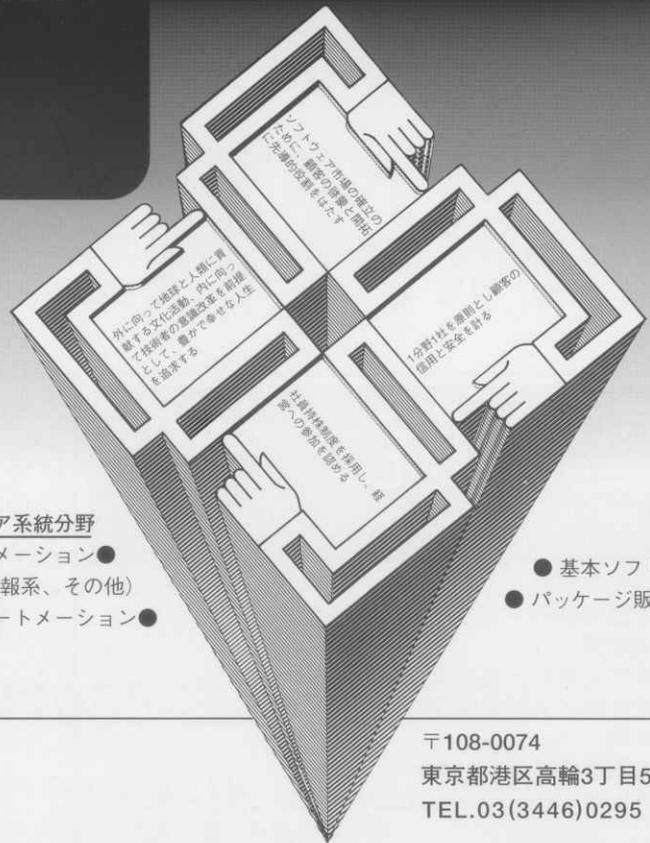
代表取締役 滝田 征雄 (昭和38年卒)

甲府市上条新居200

TEL 055-241-8861 FAX 055-241-9050

●ソフトウェア開発及び販売を専業とし、
関連業務の多角化でなく
開発分野の総合化と流通化を計り、
情報社会に貢献する

- 創立年月日 昭和46年7月16日
- 資本金 13億7,605万円
- 上場市場 東証2部



ソフトウェア系統分野
ビジネスオートメーション●
(業務系、情報系、その他)
プロセスオートメーション●

● 基本ソフト・他
● パッケージ販売



株式会社 **ジャステック**
代表取締役社長 神山茂(昭和30年卒)

〒108-0074
東京都港区高輪3丁目5番23号
TEL.03(3446)0295 (代表)

祝 甲府中学・甲府一高 東京同窓会

有限会社 **清和** ミニマム

代表取締役 清水 秀和 (38年卒)
顧問 土屋 忠敬 (38年卒)
顧問 遠藤 孝春 (38年卒)

〒181-0012 東京都三鷹市上連雀2-25-5 TEL (0422)71-4888

珍珠坊

広東名菜
香港飲茶点心

Pearl Garden



☎ 03 3501-2251

東京都港区新橋2-10-1NKビル

- 営業時間 (年中無休)
月曜日～金曜日17:00～翌3:00
日・土曜日・祝祭日11:00～23:00
- ご予約も承っております。どうぞご利用ください。

<http://www.topplan.net>

昭和38年卒
今村 篤

総合広告代理店

株式会社 **明文館**

代表取締役

中村 敏男 昭和36年卒

〒101-0065 東京都千代田区西神田2-4-1
東方学会新館

TEL.03(3230)4859
FAX.03(3230)4860



総合建設業

風間建設株式会社

ISO 9001:2000

登録

BCJ-QS-0301

代表取締役 風間 義一 (昭和36年卒)

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1

TEL (055)262-2036(代)

FAX (055)262-4632

聖学院大学

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1 Tel 048-781-0925
http://www.seigakuin-univ.ac.jp

- 政治経済学部
政治経済学科/コミュニティ政策学科
- 人文学部
欧米文化学科/日本文化学科
児童学科/人間福祉学科
- 大学院
政治政策学研究科(修士)
アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科(博士・修士)
昭和37年度卒 標 宣男

土木・建築基礎工事中各種調整剤の製造・販売
汚濁水・廃泥水・汚泥・浚渫土・ヘドロ
建設発生土等の処理剤、土質改良材の製造・販売

(株)テルナイト

代表取締役社長 河内 三郎 (昭和27年卒)

〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷1-7-5

電話 03-3377-9321 FAX 03-3320-8961

WORLD WIDE NETWORK

海外80カ国からの総合ニュース通信社

インターネットによる
写真情報の即日リサーチおよび配信

日本写真エージェンシー協会会員
日本電子出版協会理事

株式会社 ユニフォトプレス

代表取締役 太田 東洋男 (昭和36年卒)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-7-6カクエイビル5F
TEL 03-3264-3761 FAX 03-3239-7002

URL http://www.uniphoto.co.jp e-mail:library@uniphoto.co.jp

各種旗・幕・のぼり製作 販売

金生屋旗店

甲府市 住吉 1-6-18.

電話 055-233-6564.

代表 石川和弘・昭和38年卒

安全・快適な
デラックスタクシー・ジャンボタクシーをどうぞ!
観光でのご利用も、お待ちしております。

(株) 合同タクシー

本社 甲府市大和町1-48

☎ (055) 255-5151 (代)

Free Dial 0120-51-5116

社会、労働保険・給与計算・人事労務相談

横尾経営労務管理事務所

〒274-0065 船橋市高根台1-11-1-103

TEL 047(456)6678 FAX 047(456)6656

脳卒中  頭外傷

甲府脳神経外科病院

脳神経外科・神経内科・歯科・口腔外科

救急・労災指定病院

理事長 篠原豊明
(昭和38年卒)

甲府東高校前 ☎055-235-0995 (代)

<http://www07.u-page.so-net.ne.jp/yg7/atama/>

内科・胃腸科

菊嶋クリニック

〒111-0051 東京都台東区蔵前3-13-13 NRビル3F
TEL 03-3851-3281

院長 菊嶋慶昭 (昭和38年卒)

BARKS  GLOBAL
MUSIC
EXPLORER

矢野 峻行 (昭39卒)
TAKAYUKI YANO
(株)パークス
東京都港区赤坂4-13-13
TEL.03-5549-1358

音楽ファン必見サイト

<http://www.barks.co.jp>

有限会社サークルレンタシステム

本社 山梨県中巨摩郡白根町飯野3795
TEL 055-283-5019(代) FAX 055-282-2034
東京営業所 東京都府中市寿町1-6-2ことぶきマンション203号
TEL 042-334-5424(代) FAX 042-335-2791
長野営業所 長野県松本市今井6300
TEL 0263-50-3380 FAX 0263-50-3330

地球温暖化を防止するために、私たちが考えていること…。
人にも自然にも優しい、エコロジーマットが緑化を無理なく実現！
国土交通省新技術活用促進システム技術審査認定

地域、町おこしプランニング致します。

有限会社 スカイコーポレーション

会長 丸山 義仁（昭和38年卒）技術士（建設部門）

※資料請求はこちらまで 〒135-0046 東京都江東区牡丹3-5-3
TEL 03-3642-6311 FAX 03-3643-9655
E-mail sky-oku@tb4.so-net.ne.jp

東芝電送株式会社

代表取締役 三 枝 靖 夫

〒105-0014 東京都港区芝2丁目31番15号 北海芝ビル
TEL.03-5440-1666 FAX.03-5440-1671

パーキング経営のプロフェッショナル



日本パーキング株式会社 代表取締役 小林 伸 司（昭和42年卒）

〒102-0084 東京都千代田区二番町10番地5 TEL.03-3222-0015 FAX.03-3222-0029

URL <http://www.ijnet.or.jp/NPC>

大阪営業所 TEL.06-6377-0015 名古屋営業所 TEL.052-201-0015 福岡営業所 TEL.092-716-3623

甲府一高は今… 一高 データベース

2001.4.現在

校 是

賛天地之化育
苟日新 日日新 又日新
Boys, Be Ambitious

1. 在校生

普通科	男子	448	女子	422	計	870
英語科	男子	48	女子	72	計	120
総 計	計	496	計	494	総計	990

2. 教職員

校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	期 採 教 諭	期 採 講 師	代 替 教 諭	実 習 講 師	A L T	非 常 勤 嘱 託	非 常 勤 講 師	研 修	事 務 長	事 務 次 長	主 任	主 事	司 書	業 務 員	P T A 職 員	校 医	学 校 薬 劑 師	合 計
1	2	52	1	3	0	0	2	1	4	1	1	1	1	1	1	1	2	3	4	1	82

3. 卒業生

学 校 名	卒 業 年 度	卒 業 生			
		男	女	計	
尋 常 中 学 校	明 22～ 34	313	0	313	
県 立 山 梨 県 第 一 中 学 校	明 35～ 38	209	0	209	
山 梨 県 立 甲 府 中 学 校	明 39～昭 22	5,811	0	5,811	
小 計		6,333	0	6,333	
山 梨 県 立 甲 府 第 一 高 等 学 校	全 日 制 課 程	明 23～現 在	16,001	7,482	23,483
	定 時 制 課 程	明 26～ 48	568	607	1,175
	通 信 制 課 程	明 32～ 48	88	249	337
	小 計		16,657	8,338	24,995
合 計		22,990	8,338	31,328	

祝 2001年 甲府中学・甲府一高 東京同窓会

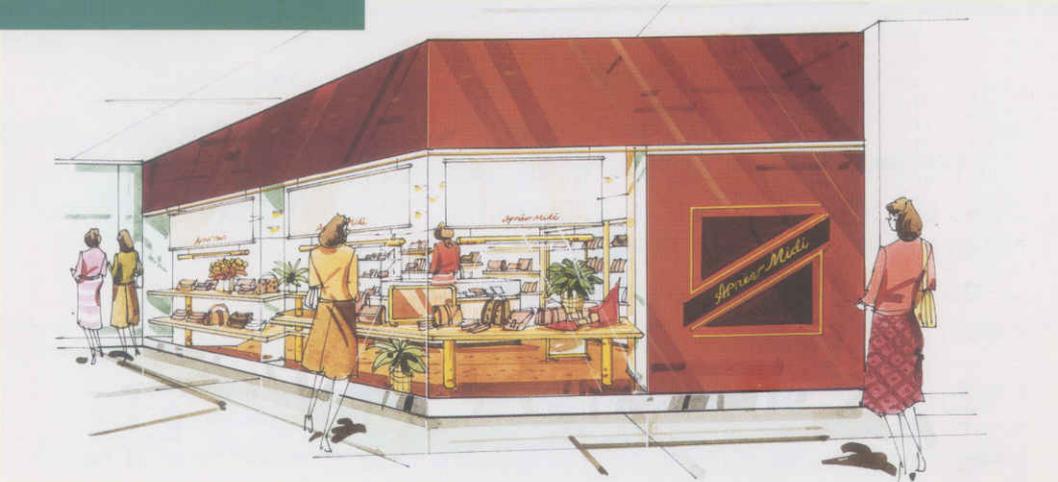
38年卒 有志

丸山 義仁	渡辺 房男	武内 紘司	河野 幹夫
武田 信義	若尾 義人	清水 秀和	長沼 眞
勝村 武仁	市川 泰雄	菊島 慶昭	北村 清巳
鳥居 克彦	中澤 善雄	堀内 高	望月 公雄
小佐野 浩	斎藤 四四光	矢野 峻行	矢口 百合子
武田 信彦	丸山 時二三	山田 常夫	梅沢 梅子
市橋 金之助	埴原 攻	広瀬 修二	鈴木 紀子
		伊藤 尚武	後藤 俊邦 (故人)

日新鐘 第8号 / 発行日 2001年7月13日 / 発行 恩田 宗 (昭和27年卒) / 編集 武内紘司 (昭和38年卒)
印刷 (株) サンニチ印刷 東京都渋谷区代々木2-10-8 ケイアイ新宿ビル ☎03-3374-6241(代表)

Après Midi

アプレ・ミディ



株式会社 アプレ・ミディ

代表取締役 堀内 高 (昭和38年卒)

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-11-17
TEL.03-3470-0153 FAX.03-3470-0344

津田沼店	〒274-0825	船橋市前原西2-18-1	バルコ1F TEL.0474-78-3635
松本店	〒390-0811	松本市中央2-2-28	バルコ1F TEL.0263-38-2130
調布店	〒182-0026	調布市小島町1-38-1	バルコ1F TEL.0424-89-5135
ひばりが丘店	〒202-0001	保谷市ひばりが丘1-1	バルコ1F TEL.0424-25-5098
厚木店	〒243-0018	厚木市中町2-12	バルコ1F TEL.0462-96-8123



財団法人 天誠会

〒180-0022

東京都武蔵野市境1丁目18番6号

TEL 0422-51-0301

FAX 0422-51-0376

理事長

医療部門統括長

福祉部門統括長

事務局長

佐野迪雄

天野雄介

天野久美子

清水秀和 (昭38卒)

